

新築青果 SDGs マッピング

新築青果が大切にしていること	新築青果がいま取り組んでいること																	合計数 (参考値)	現在の取り組み+	これから取り組むこと	将来の目指すべき場所	優先課題 (優先順位)
	SDGs																					
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17					
経営方針	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	0				
経営方針	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	10	面積当たりの収穫量(収率)を伸ばせおらず、収益面の課題がある。そのためオーガニック経営を実践する農家が増えていない。 (現状は5ha当たり100)	・よい土壌をつくるための技術の向上	5ha当たり200tにすることでオーガニック経営実践農家を増やす	2
経営方針	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	7	フードマイレージを意識すると業務用に北海道産を仕入れているが北海道→支路島→京都・愛知へ逆流が起きている	納品先に近い工場から出荷するための仕組みづくり	北海道・関東・愛知に自社の工場を設置		
経営方針	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	11	面積当たりの収穫量(収率)を伸ばせおらず、収益面の課題がある。そのためオーガニック経営を実践する農家が増えていない。 (現状は5ha当たり100)	・よい土壌をつくるための技術の向上	5ha当たり200tにすることでオーガニック経営実践農家を増やす	2	
環境系	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	3	・自家堆肥化は実践している ・玉葱皮の再利用	地域のバイオマス(汚泥含む)を利用した事業まで至っていない。 ・玉葱皮の新たな再利用方法に関する情報収集	・タマネギの皮を利用した色素抽出を行う。 ・皮を使った新技術による有効物質の抽出について研究する(例:セルロースナノファイバー)	3	
環境系	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	2	・再生エネルギーによる脱炭素化。太陽光発電パネルの設置済み。現在会社全体の42%をまかなっている。 (全館農業事業の70%)	・排出量の見える化	2030年までに事業に伴うCO2排出量を半分にする	4	
環境系	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	7					
環境系	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	3					
環境系	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	2					
環境系、	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	2					
環境系、	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	2					
人系	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	2					
人系	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	2	・社員による改善提案の積極採用 ・自社が取り扱う商品の理解(味・機能性・環境負荷など)促進	自社が取り扱う商品の理解(味・機能性・環境負荷など)の更なる促進により、働きがい、やりがいが増える必要がある	2030年までに働きがいをもっとアップさせて日本の平均賃金を超える		
人系	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	13	社員の一部に対する教育を実施中	社員全員が、新築青果ではたく者や次世代の子供たちに対して、もっと食を通じた教育をしていかなければならない。	・従業員全員が新築青果のビジョンを共有する。 ・小学生等の工場見学を年1回以上受け入れる。	5	
人系	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	2	現在管理職6人のうち女性管理職は1人	女性管理職の積極採用	2030年までに女性の管理職を30%を超えます		
人系	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	1	事業継続計画(BCP)策定済み 南あわじの工場立地(安全な場所に立地している)	事業継続計画(BCP)のレベルアップ	実行BCPの更新(充実)を2024年度までに完了させる	1	
人系	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	11	自社農園の有機栽培の実践	自社農園の有機栽培を確立させ、日本・海外の色んな地域で有機栽培を確立させる。	前線で苦しむ地域で自立できる栽培を教え実現させたい(2050年)		
合計数(参考値)																	78					